

湖北省シキ県三峡ダム周辺植林活動、第三期植林終了

雪害による特産物ミカンの被害甚大 崖崩れなど連鎖的被害の中、希望の苗を植える

「友愛」の青少年国際交流事業の一つである植林活動も八年目を迎え、今年度は一ヶ所を担当した。十九年十一月の新規事業福建省アモイ市に続き、平成十六年から取り組んでいる湖北省シキ県の三峡ダム周辺の第三期植林活動が行われた。三峡ダムは、完成を目前に発電所も稼働を始め、地元は活気づいている。しかし、昨年未だに降った雪の被害も甚大で、柑橘類生産関係者は大きな痛手を被った。植林記念碑の建つ現地でも、生々しい崖崩れの跡があちこちにみられた。また、重要な産物である柑橘系の植物が、「凍結」による葉の変色、立ち枯れなどを生じ、今後予想される被害総額もかなりの額にのぼるといわれている。それらの状況からも、植林活動に寄せる期待は大きく、治水、土砂災害防止、環境改善、経済活動増強など、多方面への効果が望まれている。

二月二十六日(火)〜二月二十九日(金)の三泊四日の予定で、友愛植林訪中団は出発した。

訪中団は、これまで全ての訪中に参加している川手正一郎団長のもと、同じく毎回参加の福田八州雄評議員、早稲田大学在学中の谷藤幸(つかさ)さん、羽中田事務局員の四名で結成された。

成田から北京経由で、湖北省宜昌市の宜昌空港へ。空港では関係者一行が「熱烈歓迎」の横断幕で出迎えるなか、友愛訪中団は無事到着した。

ここから約一時間半車で植林地近くの街に向かう。



中国全図からみたら今回の植林地

湖北省



昨年冬の降雪で、ミカンの被害は甚大であった。併せて崖の崩壊などが各地で起こり、道が寸断されたり、ミカンの出荷が出来ないなど被害は連鎖的に大きくなってきている。三峡ダムの建設で出来上がったシキ県が初めて見舞われた大きな災害といえる。これらの状況改善、予防のためにも植林は欠かせない事業となっている。



五〇層以上はあろうかという急斜面が、今回の植林地。いたるところにミカンが植えられているこの地だが、崩壊はつきもの。この植林に期待が集まる所以である。



今回の植林に用いられた「ミカンの苗」。シキ県はミカンとお茶の栽培が盛んで、ミカン、ネーブルオレンジは主な収入源である。環境改善と経済改善の一石二鳥策



「母なる川を守る活動」と書かれた植林記念碑。川手団長(写真右)とシキ県副知事(写真左)によって除幕された。葉のデザインには、「日本友愛青年協会」の名も



植林地場には早朝にも開けず沢山の子供たち、村人の方々が集まって歓迎してくれた。



植林活動最終日、関係者による説明報告会議もたれた。熱心な中国側関係者は十分な資料を作成しているなど細かい気配りだった。

今回の植林地は、三峡ダムの上流にあたり、宿泊地より車でさらに一時間半内陸に向かう。途中揚子江を横断するため「フェリー」に乗ったが、実態は写真の通り。

周辺の植林地は、三峡ダムの上流にあたり、宿泊地より車でさらに一時間半内陸に向かう。途中揚子江を横断するため「フェリー」に乗ったが、実態は写真の通り。

周辺は三峡ダム建設により、湖底に沈むことになる地域の方々の移住のために建てられたアパートが並び、昔ながらの中国の風景とは趣を異にしている。それもそのはず、何と移住した人数は百三〇万人、一つの市が新たに出来上がったことになる。

三峡ダムは、それ程経済的にも、人的にも大きな事業取り、中国も威信をかけて取り組んでいる。二六基ある巨大発電タービンは既に稼働を始め、電力を供給している。ダムの水位も徐々に上がっており、完成は間近。とはいえ全貌を俯瞰することは難しい程の巨大な建造物で、正に万里の長城の河版といえる。

付近は、揚子江の水蒸気が常に川面に漂い、視界の下三分の一はモヤがかかったように見える。「これがまさに山水画に描かれている景色ですよ」と中言連湯部長が、流暢な日本語で説明してくれました。

立つのも難しいほどの傾斜地に、何とかミカンの苗を植え付け、水をやり、無事植樹を済ませた。シキ県の誇りでもある柑橘樹の葉を象った記念碑も、急勾配に建立されていた。

シキ県関係者の努力で、報告会議の開催もあり、充実した植林訪中活動を行うことができた。



昨年、一昨年の植林現場を視察
元気に、太く育った苗に一同感激！



訪中団は、第一期(平成十六年二月)、および第二期(平成十八年二月)の植林地二カ所を視察、活着(移植した植物が根付く)率九〇%以上という成果に伴い、元気に育成している苗を見て、歓声を上げた。

苗の背丈の伸びは一〇〜二〇センチだが、幹の太さは直径で一〜二センチ増を上回り、しっかりと根付いていることを物語っている。

第一期植林のヒバ種の苗は、手入れも行き届き、植林時に比べると確実に大きくなっていった(写真左上)。

全体的に見回しても、細かい感が否めなかった植林時に比べ、その存在がはっきりと判る大きさに育っていた。(写真左下)

また、昨年植林した柑橘系植物は、幹が一段と太くなり、逞しさを感ぜさせる。手入れをしている現地担当者からは、再来年には花を付け、結実する可能性があるとのこと。白い花におおわれた山、黄色い実を付けた木々を思い浮かべ、大きく育てと声を掛けて下山した。(写真右上)

既に植林が済み、林を形成しつつある別の山の斜面は、緑の比率が多くなり、茶色の地肌が少なくなっている。(写真右下)

この状態になると、環境改善の面からも、土砂災害防止の観点からも効力を発揮するようになる。

ヒバもミカンも、早く大きく、強く育て！

文化交流 文化交流 促進中日人民交流

「友愛」外廻り

(五)メキシコオリンピック世界青少年キャンプ

奥田 吉郎

メキシコオリンピック向世界青少年キャンプの輝かしき成果を受けて、この灯を消すことなく続けてゆこうと、青少年キャンプ委員会の存続が決まり、キャンプ組織委員会の残余財産を継承、中青連に事務所を戻し、再出発をした。

幸い、世界青少年交流協会とのメキシコ派遣に合流し、昭和四十一年十一月、メキシコ政府、同オリンピック委員会、青少年団体に、東京の際の資料をもとに、キャンプ開催の熱心な要請を展開した。

ちなみに、その時の派遣団員の大洞龍明氏(友愛岐阜)の肝入りで、一昨年東京で、四十年ぶりに会合がもたれた。

多くの関係者の努力が実を結び、一九六八年メキシコオリンピックに、キャンプが開設されることが決定した。

それも、オリンピック委員会が主催、種目の一つとして実施する、画期的事業となった。

メキシコ派遣日本団の結成、メキシコオリンピック委員会からの、キャンプの正式招請を受けて、メキシコ

オリンピック世界青少年キャンプ派遣実行委員会が結成された。(委員長・川崎秀一)

メンバーは、JOC、青少年キャンプ委員会、中青連、日本体協で構成され、所管は、文部省社会教育局青少年課となった。

度重なる協議の上、各要項、募集、研修等に検討を加えた結果、派遣団が結成された。

総勢百三十名、団長奥田吉郎(友愛)副団長石川一郎(ボイスカウト)事務局長古屋修則(日青協)私も団長に選ばれ大変名譽であると同時に、重大な責任を感じた。

友愛からは、他に辻谷勝宏(助監督)山田行春(学生部)吉川貴盛(学生部・現衆議院議員)の三名が参加した。

昭和四十三年十月五日、羽田空港を出発し、ロスを經由して、メキシコに入り、そのままオーステペックのキャンプに入村した。

オーステペックキャンプ村と行事

村は、メキシコシティから九十キロの遠隔の地に設営されたものの、社会保障庁自慢の国民休暇村で、二十四万坪の広大な敷地に、

食堂、劇場、宿舎、広場、運動場、プール、各施設等があり、テント生活を想像していた団員は、施設の立派さに、先ず驚かされた。

食事は、五百人収容の食堂でセルフ、料理も多彩で飲み放題のコカ・コーラまでついた。

キャンプ村の開村式は、十月四日、参加国は、十八ヶ国、八百三十一人であった。

参加人数の多い国をあげると、地元メキシコ二百二十五人、西独百四十九人、日本百三十人、米百十人、フランス六十人となる。

の銅メダルなど、取り上げる行事も多いが、とても紙数が足りない。三点あげる。

オーステペック宣言(抄)

「世界の青少年を、単にスポーツを通じてのみならず、文化交流及び協力、「友愛」を通じて結果するために、この種の国際キャンプは、四年毎に開かれるオリンピック大会の、場所および時期において、継続して開催する慣行を樹立することに賛意を表し、かつ促す。

我々は、国際オリンピック委員会(IOC)が、将来のオリンピック青少年キャンプを、オリンピックの不可分の部分として制度化することに、考慮を払うよう、国際オリンピック委員会に訴える。

のち、オリンピック憲章に採択された。

オリンピック日本選手団より、陸上が奮わずマラソンにかけるので、特別の応援依頼があった。

団をあげて応援に廻り、インスルヘンデス大通りを始め、沿道に日の丸の小旗をもって団員が並び、声援の限りを尽くした。

若しそうに走る君原選手を励まし、エチオピアのマモウ選手について銀メダル獲得、沿道の声援に助けられて、走り続けたとの談話をきいて、思わず熱い涙が止まらなかつた。

キャンプ引き揚げの前夜、キャンプ日本団の先頭を飾った女性の着物と、体育テストの機器が盗難に合

った。

役員会では、意見が種々出たが、団長の決断で強く抗議をすることにした。

それから一年、在日メキシコ大使館より連絡があり、どうしても発見出来ないで、機器は、金銭で弁証、着物については、メキシコ女性の晴れ着贈呈となり、友好を回復した。

友愛外廻りもこれで終わりますが、友愛本来の活動

の他に、日本の青少年団体の一つとしての、活動の一端に触れてみました。

他にも、中央青少年団体連絡協議会(中青連)日本青少年団体国際委員会(青年国際委)世界連邦青年協会の、核兵器禁止平和建設国民会議(核禁会議)青少年育成国民会議等、関連の事業も、多々ありますが、この程度に止めておきたいと思えます。

「友愛」と姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟(OJAB)の交換研修生として、昨年の友愛ドイツ歌曲コンクール一位入賞の石井藍さんが派遣された。石井さんは、三月十三日ウィーンで晴れ舞台に立つ。

出発にあたってその抱負を、友愛に寄せてくださいました。

コンクールが終了して、一週間、あつという間にコンサートへ向け、ウィーンへ旅立つ日がやってきました。昨年九月までウィーンに滞在し、音楽の勉強していた私ですが、このように「友愛ドイツ歌曲コンクール優勝者コンサート」というかたちで、再びウィーンの地を踏めるとは、なんと幸せなことでしょうか!

今まで勉強してきたさまざまなことが、友愛ドイツ歌曲コンクールの機会を得て、十分に発揮できるようになり、加えて具体的に文部科学大臣賞受賞という結果となりました。このこと

今回のコンサートで、いろいろなことを吸収し、さらにこの先の糧に出来るよう頑張りたいです。

(石井 藍 記)

友愛ドイツ歌曲コンクールに出演する、見事優勝の石井 藍さん

今年度から、新料金表(下欄)・泊一食付き一名分・税別・五名まで同室)が設定され、五名以上の団体が、研修会、勉強会、親睦会、合宿などの利用目的の場合団体割引料金が適用されることとなりました。

この機会に、是非ご利用ください。なお、ご利用についての詳しくは、事務局までお問い合わせください。

電話03(5684)3188

有料利用施設

テニスコート/パレーコート兼用

(一面 全天候型)

軽井沢友愛山荘

四月一日オープン

友愛活動の原点! 大いに活用を!

受付開始三月二十四日*

軽井沢友愛山荘は、四月一日に、開館いたします。

友愛山荘の運営は、「友愛活動」の原点ともいえる活動で、今後の活動のためにも十分な活用ができるよう皆様のご協力、ご利用をお願い申し上げます。

夏の間は避暑地としてはもちろん、春の新緑、秋の紅葉と季節を問わず自然の景観を楽しむことができます。また、最近は大規模商業拠点の店出も多く、人気を集めています。

友愛山荘は、会議室などの設備もあり、研修、勉強会、合宿などに最適です。最大収容人数も四十二人と、十分な収容力を備えていますので、各種団体研修旅行などにご利用いただけます。

今年度から、新料金表(下欄)・泊一食付き一名分・税別・五名まで同室)が設定され、五名以上の団体が、研修会、勉強会、親睦会、合宿などの利用目的の場合団体割引料金が適用されることとなりました。

この機会に、是非ご利用ください。なお、ご利用についての詳しくは、事務局までお問い合わせください。

電話03(5684)3188

有料利用施設

テニスコート/パレーコート兼用

(一面 全天候型)

会議室(十五名まで) (ピアノ)

自転車

24インチ(10台)

*テニスコート・会議室ご利用ご希望の方は、事前にお申し込みください。

無料貸し出し

各種ボール、バトミントンセットは無料貸し出しをしております。

また、簡単な囲碁、将棋もご用意しております。

その他

*山荘は二階建てで、エレベーター等の設備はございません。一階をご希望の方は、申込みの際にお申し出ください。

*浴衣、小タオル、バスタオル、歯ブラシセットは用意しております。ドライヤーは浴室に備え付けています。

| 個人利用料金 | 団体利用料金 | | |
|--------|--------|--------|-------|
| | 5~9名 | 10~15名 | 16名以上 |
| 一般 | 10,000 | 8,000 | 6,000 |
| 会員紹介 | 9,000 | 7,000 | 6,000 |
| 賛助会員 | 7,000 | 6,000 | 5,500 |
| 学生 | 7,000 | 6,000 | 5,500 |

